

ふくしま 再生 短信

2018/11/4 野手上山ハイキングと溪谷散策同行記

※ 山頂のホットワイン ※

2018年11月4日8時霊山センターを出発、誠に美事な秋晴れの下、野手上山 (のてがみやま) ハイキングが



(写真上から) 比曾川溪谷は全山紅葉。新田川溪谷の巨岩をくり抜いたトンネル。新田川溪谷沿いを健脚自慢の隊列が進む。この日のヒーロー・放射線測定器具一式を背負い登坂する増田さん。

始まる。リーダー兼ガイド・小原壮二さん以下総勢九名参加、風兼 (ふがね) ダムまで車3台で移動後、スタート地点の野手神山神社大鳥居に集合、山の守り神に

一同神妙にご挨拶。まずは比曾川溪谷沿いを下りながら全山紅葉を楽しみ、10時新田川 (にいだがわ) との合流地点で小休止。栄子さん差し入れの胡瓜、矢野さん手作



(写真) 山頂のランチタイム



(写真) 野手神山神社大鳥居：ハイキング出発地点、赤色パーカーは小原ガイド。

りの漬物、小原さん持参のチーズをいただく。新田川溪谷沿いの緩い登りは巨岩と滝の織りなす絶景の連続。11時過ぎ登山口到着、小休止。

ここからいよいよナラの森コースの登りに入る。再生の会の健脚軍団は急坂を物ともせず、13時標高628mの山頂ランチタイム、永徳さんの奥さん、和子さん

からの差し入れのもち米入りのおにぎりに幸せ体感。小原ガイド

はバーナーを取り出してホットワインを振る舞う粋な計らい。これぞ最高のお神酒。

急坂を下り14時50分佐須に帰還。中町さん「初めての紅葉幸せイッパイ」矢野さん「贅沢な時間に大満足」増田さん「(機材担当) 無事に終わりホッと」。秋天好日。
(文責・撮影：若林一平)



(写真上から) ナラの森コースで菅野永徳さんが見つけたムラサキシメジ。菅野栄子さん差し入れの胡瓜と小原・徳田チーム特製お握り。

まりしてん 摩利支天

◆野手上山は、野手神森と言われ古くからの行者の修行場として知られ幾多の逸話が残されている。昔から天狗が住む山として信仰されてきた。中央 (山頂) に祭られている摩利支天の化身 (写真右) はすなわち

天狗である。又、山神、古峰の大神を合わせて野手神山神社と称されている。(野手神山神社解説板より)

◆摩利支天、元はサンスクリット語、威光。陽焰と訳されている。摩利支天菩薩とも。みずからの姿を隠し、障害を

除いて利益 (りやく) を施す天部で梵天の子として古代インドの民間で信仰され、後

に仏教に取り入れられた。・・ (『平凡社世界大百科事典、2009年版』)

◆山の神々は神仏が混淆する協奏の世界である。

